

第2部 近畿圏の目指す姿(080305 案)

第1節 歴史・文化に誇りとこだわりを持って本物を産み育む圏域

- 長い年月をかけて多様な文化を創造・継承・蓄積してきた関西が、日本のアイデンティティの象徴圏域となる。
- これら本物の日本固有の歴史・文化資産や景観を大切に保全・継承し、本物にこだわる伝統を踏まえ、まちづくり、ものづくり、ひとづくりにおいても徹底して質にこだわり、新たな本物(「関西ブランド」「日本ブランド」)を創造・展開する圏域となる。
- 隣接する地域も含め関西各地に残る固有資源(伝統・文化・風景など)を核として個性あふれる地域づくりを行い、世界に誇れる歴史・文化圏域となる。

第2節 首都圏とは異なる多様な価値が集積する日本のもう一つの中心核

- これら関西が持つ高度かつ多様な基礎ポテンシャルをシームレスに繋ぐとともに、他圏域との連携を強化することで、多彩な文化、暮らし、産業が息づき、生活の豊かさが実現された首都圏とは異なるもう一つの中心核となる。
- 隣接する圏域と相まって圏域全体として総合的な経済力を高め、日本経済を牽引する核となり、東京一極集中を是正する役割を担う圏域となる。
- 多様で厚みのある文化の集積を活かして、我が国における「文化首都」としての役割を担う圏域となる。
- 非常時には首都圏のバックアップを担う圏域となる。

第3節 アジアをリードする世界に冠たる創造・交流拠点

- 京阪神都市圏が関西と周辺地域の人・モノ・情報・経済を牽引するとともに、関西のエンジン産業として次世代産業やクリエイティブ産業を位置付け、これにより多様で層の厚いものづくり基盤技術を有する企業をはじめ近関西の産業全体を牽引する圏域となる。
- 国際競争を視野に入れた次世代産業などを展開するため、陸・海・空の人流・物流の総合交通ネットワークが確立されたアジア・ゲートウェイを担う圏域となる。
- 質の高い人材を育成・創出するとともに、アジアをはじめ世界の優秀な人材が関西を拠点に密度の高い交流を展開することにより、他圏域にない独創性豊かなイノベーションを生み出す圏域となる。

第4節 人と自然が共生する持続可能な世界的環境先進圏域

- 豊かな自然環境の保全・再生や地球温暖化防止などの環境対策を関西全体でマネジメントすることなどにより、環境先進圏域を目指すとともに、環境関連の産業・研究機関の集積を活かし、地球環境問題の解決に向け、世界に貢献する圏域となる。
- 健全な水循環系の構築、水文化の継承、生態系や原風景の保全・再生に向けて、流域圏を一体として捉えて環境再生に取り組む圏域となる。
- 関西全体で廃棄物リサイクルなどを行うことなどにより、循環型社会を実現する圏域となる。

第5節 都市的魅力と自然的魅力を日常的に享受できる圏域

- 都市と自然との近接性を活かし、二地域居住や一つの地域に住んでいても両方の魅力が味わえる住まい方など、多様なライフスタイルが選択できる圏域となる。
- 大都市部は、それぞれの都市が持つ個性を活かしながら、国際ビジネス機能や高次の生産消費機能、都心居住機能などを発揮し、関西や周辺地域をリードする。
- 地方部では、中心的な都市を核として周辺の地域と連携することにより、持続的に発展する広域的な生活圏を形成する。
- 農山漁村では、農林水産業のもつ食料の安定供給の役割をはじめ水源涵養、国土保全といった多面的で公益的な機能を十分に発揮させるための適切な整備と保全を図り、その上で、都市との共生・対流や地域資源を活用した産業の活性化などにより持続可能な地域社会を形成する。

第6節 人々が自律して快適で豊かに暮らせる高福祉圏域

- 各地域が広域的な連携を図ることにより、関西のどこに住んでも医療・教育・交通などの基本的な生活サービス機能を享受できる圏域となる。
- 地域コミュニティの再生により、子育てなどの面で多様な主体が地域全体で社会を構築する圏域となる。
- ユニバーサルデザインの考え方にに基づき、高齢者、障害者など多様な人々が自由に社会に参画し、生き生きと暮らせる圏域となる。

第7節 暮らし・産業を支える災害に強い安全・安心圏域

- 東南海・南海地震などの大規模地震・津波、豪雨・豪雪・高潮などの自然災害に強く、安心して生活し産業活動ができる圏域となる。
- 過去の災害の経験を活かし、防災・減災分野における研究・教育と実務を兼ね備えた、国内及びアジア・太平洋地域に貢献する国際防災拠点となる。